

# 令和7年度 県中国研 第1回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和6年6月4日（水）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

## 【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 会長挨拶 (会長 泉中 河合 広映 先生)
- 2 令和7年度の活動の方向
  - ① 令和7年度の活動に関して (不破中 小宅 陽久 主務)
  - ② 令和9年度西濃大会について (西濃大会実行委員長 揖東中 木下 隆一 先生)
  - ③ 令和7年度の研究の方向  
全体研究構想・令和7年度の研究について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)  
話す聞く研究構想 (上石津学園 片山 博寿 話す・聞く部長)  
書くこと研究構想 (瑞浪北中 山崎 雅 書くこと部長)  
読むこと研究構想 (日枝中 上條 亘 読むこと部長)  
言語文化研究構想 (蘇南中 加藤 祐輝 言語文化部長)  
「ぎふこくご賞」の応募に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
  - ④ 各地区の代議員について (八幡中 上村 光一 総務部長)
  - ⑤ 会計部、広報部、情報部、編集部から  
会計収支決算・予算について (草潤中 平岡 慶将 会計部長)  
情報部の活動について (大垣市立北中 和田 光平 情報部長)  
機関紙「ぎふこくご」について (藍川北学園 野々村 琢磨 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜県教育委員会 義務教育課 橋本奈美 課長補佐 様
- 4 おわりの言葉 (副会長 加納中 村山 邦博 先生)

## 令和7年度 研究部各部会

日時：令和7年6月4日（水）16：00～16：45

於：オンライン（Zoom）

## 【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長

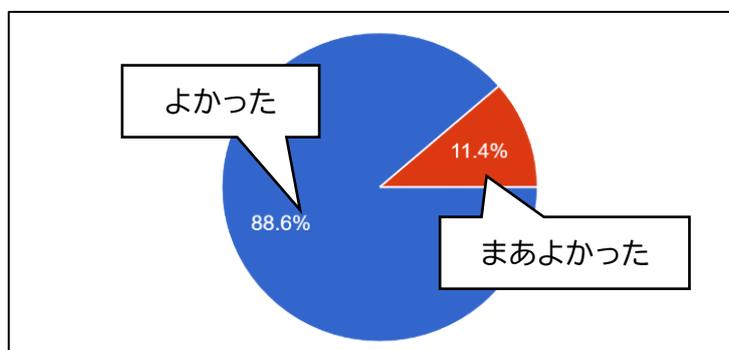
- 1 自己紹介
- 2 令和7年度の研究について
  - ・「令和7年度研究構想」をもとに、研究の見通しをもつ。
  - ・年度末には、実践の成果と課題を成果物としてまとめていく。
  - ・各部会の成果物については中国研ホームページにアップしていく。(終了後、部会ごとに解散)

# 岐阜県中国研 令和7年度の活動について

垂井町立不破中学校 小宅陽久

## 美濃から西濃へ研究実践のバトンをつなぐ

令和6年10月21日(月)、24日(木)に実施された「岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会」(以下、美濃大会)。美濃大会では、美濃地区の秋の市教研を公開授業(対面)とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施しました。これは、各都市にある国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで、県大会を開催していく意義が明確になると考えたからです。また、教員数の減少や働き方改革の推進についても考慮し、今後も岐阜県の国語科の先生方が学び合える持続可能な県大会になるようにしていきたいと考えたからです。この美濃大会に向けて、三年前から準備を開始し、当日の学習指導案や実践発表、研究構想について、研究部各分会、夏季ゼミナール(美濃大会準備会)で何度も話し合ったり、修正を繰り返したりしてきました。現状として、美濃地区には教科部会が開ける中学校が二校しかありません。つまり、ほとんどの中学校にお一人ずつしか国語科の先生がないという状態です。「美濃地区の先生方同士が関わり合いながら、県大会を実施することができた」などの前向きなご意見を多くの先生からいただき、美濃大会をやってよかったと感じることができました。美濃地区の若手の国語科の先生たちは、「今回の県大会でたくさん学べて貴重な経験となった」「こんなに授業について議論したことは初めて」と言ってみえました。また、今回の美濃大会では、飛騨大会の振り返りを生かし、郡上市立明宝中学校(話すこと・聞くこと)、郡上市立白鳥中学校(書くこと)、関市立旭ヶ丘中学校(読むこと)、関市立緑ヶ丘中学校(言語文化)で、対面で公開授業を実施しました。四分会での授業は、どれも提案性のあるものばかりで、美濃地区の先生が中心となり、何度も研究の視点の共有や指導案検討を繰り返してきた成果が出ていたと感じます。美濃大会後に実施したアンケートでは、参加した先生方から高い評価を得ることができました[図1]。主な成果と課題については次の通りです。



[図1] 美濃大会の運営についてのアンケート

### 【運営面】

- 小規模校が多いという美濃地区の現状を踏まえた県大会となっており、美濃地区から県内へ提案することは意味のあることだったと思う。持続可能な県大会の一つの形が見えた。市の教科研と関わらせたことにより、美濃地区のたくさんの先生方が主体者となり参加できたことがよかった。
- せっかく数年かけて準備してきたことなので、もっと一般の参観者の方を増やしていきたい。各地区の部長または代議員は必ず参加するなどの対応をしてもよいのではないか。

### 【研究面】

- 美濃地区の先生が力を合わせて今日の授業を作られたことがとてもよくわかる実践であった。夏の検討会を経て、研究が焦点化され、とてもよかった。非常に勉強になる授業で、参観してよかったと心から思えた。授業後の研究会の時間もゆったりと用意されており、授業者からたくさん授業についての工夫や思いを聞くことができた。
- 県の研究について、より一層重点を明確にしたり、地区の研究とのつながりを整理したりして、分かりやすい提案を今後も心掛けていく。

この美濃大会は美濃地区の市教研を活用し、対面とオンラインを併用した新しい県大会の形を示すことができました。前例がない中での新しい試みでしたが、本部役員の先生方、県の研究部員の皆様、美濃地区の国語科の先生方、関わっていただいた全ての皆様のおかげで、美濃大会を無事終えることができました。この成果と課題を明らかにし、令和9年度実施予定の西濃大会につなげていきます。では、具体的にはどのようなことを考えていくことが大切でしょうか。次の西濃大会に向けた検討事項は次の通りです。西濃大会実行委員長の木下校長先生を中心として歩みを進めていきたいと思いをします。

- 令和9年度に向かって研究実践を積み重ねていくことについては、美濃大会のやり方を踏襲し、県中国研と西濃地区が連絡を取り合いながら、西濃大会準備会や指導案検討等を実施していく。
- 当日の授業公開、全体会、研究会をどのような形で実施するか(美濃地区とは学校数、学校規模、教員の数等の違いがあるため)。
- 当日の授業を参観する先生方、研究会に参加する先生方の数を増やしたい。代議員の参加、案内の配付等を工夫する。

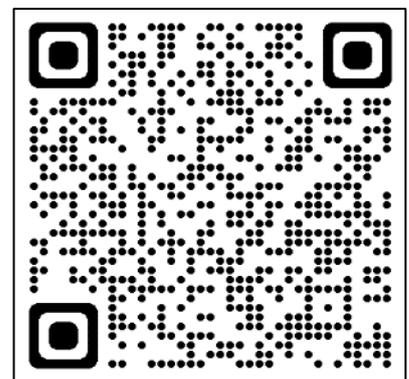
## 令和7年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月14日(水)	第1回 役員会	※オンライン
6月 4日(水)	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・令和7年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・ご指導（岐阜県教育委員会 義務教育課 橋本奈美 課長補佐 様） 【研究部各分会の内容】 ・令和7年度の研究構想の共有と活動の確認	※オンライン
7月22日(火)	第42回 NHK杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長、主務者、 情報部長が出席
8月20日(水)	県中国研夏季ゼミナール 光村図書教科書編集担当者による講話 「教科書編集に込めた意図と願い」 9:00～ 9:15 受付 9:30～10:30 講演会 10:30～11:00 質疑応答 11:00～11:15 ご指導(西濃教育事務所 江口知衣子 課長補佐 様) 11:15～11:30 県中国研より(提案、説明等)	※対面
<small>講師：光村図書出版 中学校国語課 編集長 西村 智子(にしむら ともこ)様 場所：大垣市スイトピアセンター</small>		
1月21日(水)	第2回 役員会 ・令和7年度の振り返りと令和8年度の活動の方向の確認 ・ぎふこくご賞実践論文の審査	※オンライン
2月18日(水)	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・令和7年度の振り返り ・令和8年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導（岐阜教育事務所 一川 宗弘 課長補佐 様） 【研究部各分会の内容】 ・令和7年度の振り返りと令和8年度の方向	※オンライン

# 実践を広め、深める県中国研ホームページの紹介



県中国研の活動にご理解、ご賛同をいただけるように、そして、岐阜県規模の教科部会の資料共有の場として、私たちはホームページを整備し、運用しています。県中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の四部会があります。これらの部会が中心となり作成して頂いた、授業実践の指導案等を「中国研ホームページ」(<https://gifukokugo.com>)にアーカイブしており、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。現在、ホームページには「美濃大会」の指導案、部会ごとに作成した単元構想表、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています。このような取り組みを続け、生徒が満足感や達成感を得られるような汎用的な授業資料を作成、掲載していくことは、「国語が好きだ」「国語の授業はよく分かる」という岐阜県の生徒を育てることにつながっていくと思います。お困りの際や、授業改善、御指導で活用する際の参考にして頂けましたら幸いです[図2]。



[図2] 中国研QRコード

令和7年5月吉日

各中学校長様  
各中学校国語科部員様

岐阜県小中学校教育研究会  
中学校国語科研究部会  
会長 河合 広映  
(公印省略)

## 岐阜県中学校国語科研究部会 夏季ゼミナールについて(ご案内)

新緑の候、平素は、本研究会にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
さて、標記のことにつきまして、下記の通り、県中国研 夏季ゼミナールを開催したいと存じます。全  
県下の会員の皆様にご参加いただき、今後の授業づくりの一助となれば幸いです。

記

### 【県中国研夏季ゼミナール】

## 光村図書教科書編集担当者による講話 「教科書編集に込めた意図と願い」

講師:光村図書出版 中学校国語課 編集長 西村 智子 様

- 1 期日 令和7年 8月 20日(水)  
2 場所 大垣市スイトピアセンター 2F スイトピアホール 大垣市室本町5-51  
3 日程

9:00 ~ 9:15	受付
9:15 ~ 9:30	開会あいさつ 県中国研会長 泉中学校 河合広映 校長
9:30 ~ 10:30	講演会 光村図書 中学校国語編集者 西村智子 様
10:30 ~ 11:00	質疑応答及び休憩
11:00 ~ 11:15	ご指導 西濃教育事務所 江口知衣子 課長補佐 様
11:15 ~ 11:30	県中国研からの提案・連絡 県中国研 主務者 不破中学校 小宅陽久 県中国研 研究総括 岐阜中央中学校 北原章大

### 4 参加申し込み・その他

- 本会に参加される先生方は、右の申し込みQRコードからアンケートフォームにご回答ください。  
申し込み締め切りは**6月27日(金)**とさせていただきます。
- 郡市の教科研究会での参加につきましては、代表者(代議員の先生)が代表で申し込みをしてください。後日、参加人数等の打合せをさせていただきます。原則、岐阜地区及び西濃地区、県中国研本部役員は参集とし、その他の地区は、複数名で参加申し込みのあった学校には、各学校1台に限定し、オンライン配信を行う予定です。
- その他、ご不明な点がありましたら、担当者までメールでご連絡ください。
- たくさんの皆様に参加していただくとありがたいです。よろしくお願いいたします。



<担当・問い合わせ先> 県中国研 主務  
垂井町立不破中学校 小宅 陽久  
TEL 0584-22-1020  
FAX 0584-24-1070  
メールアドレス chukokuken0420@gmail.com

令和7年4月吉日

各都道府県教育委員会教育長 様  
各市区町村教育委員会教育長 様  
各都道府県国語教育研究会長 様  
各 学 校 長 様  
各 関 係 者 様

全日本中学校国語教育研究協議会  
会長 中 嶋 富 美 代  
北海道国語教育連盟  
委員長 村 上 智 樹

第54回 全日本中学校国語教育研究協議会 北海道大会

第80回 北海道国語教育研究大会 札幌大会

(第1次案内)

研究主題 「言葉を通して、豊かな未来を創造する国語科の学び」

実践課題① 児童生徒自らが学びの主体となるための「問い」を生み出す単元・授業づくり

実践課題② 創造性の発揮に寄与する「学びのつながり」を意識した単元・授業づくり

- 1 主催 全日本中学校国語教育研究協議会 北海道国語教育連盟
- 2 後援（申請予定） 文部科学省 北海道教育委員会 札幌市教育委員会  
北海道小学校長会 北海道中学校長会  
札幌市小学校長会 札幌市中学校長会 北海道書道教育連盟
- 3 期日 令和7年10月9日（木）、10日（金）
- 4 会場 1日目 ホテルライフオーブ札幌（札幌市中央区南10条西1丁目1-30）  
2日目 札幌市内 日新小学校 二条小学校 緑丘小学校 北辰中学校
- 5 講話講演 文科省講話 文科省教科調査官  
記念講演 作家 温 又柔 氏
- 6 大会日程

【10月9日 午後】

12:45	13:30	14:10	14:20	15:40	15:50	17:15	17:30	18:00
受付	開会式 主題解説	休憩	文科省 講話	休憩	記念 講演	閉会	全中国 理事会	情報交換会 レセプション

【10月10日 全日 小学校（予定）】（会場校ごとの日程は2次案内に掲載します）

9:25	9:55	10:40	10:50	12:00	13:40	15:55	16:05
受付	分科会Ⅰ 公開授業	休憩	分科会Ⅰ 研究協議	昼食・休憩 移動	分科会Ⅱ 研究発表	休憩	閉会式

【10月10日 全日 中学校】

9:25	9:55	10:45	10:55	12:00	13:00	16:10	16:20
受付	分科会Ⅰ 公開授業	休憩	分科会Ⅰ 研究協議	昼食 休憩	分科会Ⅱ 研究発表	休憩	閉会式

7 分科会Ⅰ（公開授業/研究協議）

	校種	領域	会場		校種	領域	会場
第1分科会	小学校	話すこと・聞くこと	日新小	第7分科会	中学校	話すこと・聞くこと	北辰中
第2分科会		話し合うこと	二条小	第8分科会		書くこと	
第3分科会		書くこと（説明）	二条小	第9分科会		読むこと	
第4分科会		書くこと（文学）	緑丘小	第10分科会		言語文化（知識・技能）	
第5分科会		読むこと（説明）	緑丘小	第11分科会		書写	
第6分科会		読むこと（文学）	日新小				

8 分科会Ⅱ（研究発表）

	校種	領域	研究発表者			会場
第1分科会	小学校	話すこと・聞くこと	札幌市	オホーツク	緑丘小	
第2分科会		話し合うこと	札幌市	石狩		
第3分科会		書くこと（説明）	札幌市	十勝・帯広		
第4分科会		書くこと（文学）	札幌市	釧路		
第5分科会		読むこと（説明）	札幌市	空知		
第6分科会		読むこと（文学）	札幌市	旭川		
第7分科会	中学校	話すこと・聞くこと	札幌市	石狩	千葉県	北辰中
第8分科会		書くこと	札幌市	釧路	神奈川県	
第9分科会		読むこと	札幌市	旭川	滋賀県	
第10分科会		言語文化（知識・技能）	札幌市	オホーツク	山口県	
第11分科会		書写	札幌市	十勝・帯広	石川県	

9 大会参加費（予定） 一般 6,000円 大学生 3,000円

※情報交換会参加費、弁当代は別途となります。

10 申し込み方法

申し込みのご案内は第2次案内（6月末発出予定）および北海道国語教育連盟HPにて掲載します。  
大会参加等の申込については、専用ウェブサイトからの手続きを予定しています。

11 問い合わせ先

大会事務局 〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条12丁目1番1号 西岡中学校内 TEL 011-583-3560 Fax 011-583-1216 大会事務局長 米田 朋弘（札幌市立西岡中学校長） Emai : tomohiro.yoneta@city.sapporo.jp
---

令和7年度中国研第1回役員会

# 令和7年度の方向性について

研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

## 「美濃大会」から「西濃大会」へ



## 「研究部」レベルアップ

### 1. はじめに

美濃大会では美濃地区の先生方と県の研究部が協力し、各領域で授業を創り上げることができました。「誰でもできる」「どこでもできる」という「汎用性」を意識しつつ、「国語を学ぶ楽しさを味わい、確実に力をつける」という「本質」を求めていくという方向性を定めることができ、美濃大会で得た成果を確実に3年後の西濃大会につなげていくための道筋が見えてきました。

美濃大会に向けて、県の研究部と美濃地区の先生方が何度も指導案を検討し、お互いの創りたい授業の在り方や、国語に関する「感」をぶつけ合うことで、美濃大会の授業が生まれました。授業者は、生徒の実態や、地域の特色を踏まえて、授業を具体的に構築していきます。研究部はそこに国語の理念や研究との関りを考え、修正等の援助を行っていきます。そのようにお互いの強みを生かして検討することが、「最強の教科部会」となっていくのだと思います。

しかし、中国研も人が減りつつあります。各領域の研究部員と共に、部長の入れ替わりも大きくなりました。全国大会を知るメンバーは、もはや数えるばかりです。「困ったときに助けてくれる、国語のエキスパート集団」たるには、それ相応の実践を積んでいくことが必要だと考えます。今年度は、「研究部」をレベルアップさせる一年にしていきたいと思っています。

## 2. 具体的な方途

- (1)「美濃大会」の財産を市教研などで活用し、実践例を集める。
- (2)「本質と汎用性の両立」をテーマに、各領域が部研を行い、研究への理解を深める。

### (1)「美濃大会」の財産を市教研などで活用し、実践例を集める。

令和6年度的美濃大会では、市教研を活用した新たなスタイルが提案されました。それを踏まえて、財産である指導案や論文などをHP「ぎふこくご」上で広めるとともに、各郡市の研究部員の働きかけによって、市教研などで活用していただけるように努めます。

(2025.03.05 追加)

実践資料 5

令和6年度 国語科実践論文「ぎふこくご賞」入賞者 最優秀賞 ダイジェスト部門

関市立旭ヶ丘中学校 古川 寛之 教諭

単元名「心の動き」 教材名「大人になれなかった弟たちに……米倉齊加年」

1 指導案 PDF

### (2)「本質と汎用性の両立」をテーマに、各領域が部研を行い、研究への理解を深める。

4月22日、先駆けて研究総括の北原が自校で行った全校研究会に、数名の領域部長の先生方に参加していただきました。「研究部レベルアップ」の一例として、別に提案した研究全体構想図に則った授業を行い、領域部長や研究部員に見ていただくことで、研究部の教科指導力をブラッシュアップしていきたいと思えます。今後、西濃大会だけではなく様々な場で、教科や領域についての検討会が行われることと思えます。そこで確かな実践に裏打ちされた授業検討を行うことができるように、各領域で力を付けるための部研を行っていきます。



以下に示すのが、令和7年度の実践の流れです。

#### 【令和7年度 実践の流れ】

- ① 美濃大会に向けて作成された単元を、各部員で共有する。
- ② 共有した単元を、授業者の意図を踏まえた上で独自に解釈し、実践する。
- ③ 明らかになった成果と課題、修正点を部会で共有する。
- ④ 各領域で部研を行い、実践例を増やすとともに、部員や領域部長が研究会に参加する機会を作る。
- ⑤ それぞれが使った教材等について部会で検討し、単元をパッケージングしてHPにアップする。

※各領域が部研において提案された単元に関わる板書、ワークシート、プレゼンなどを持ちより、HPにあげるものを選択する。

# 令和7年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

## 学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

## 令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

## 岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は60%となっており、全国の平均正答率(58.1%)を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、60.5%(全国平均64.3%)、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、82.8%(昨年度80.1%)である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

## 【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

## 研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」(＝楽しい)と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」(個別最適な学習)を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、  
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

### 〈研究内容〉

#### 研究内容① 指導計画の工夫

##### (1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想(汎用的)

- ・「生きてはたらく言語能力(指導事項)」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、実践の再現性を高めるための「汎用性」の高い指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
  - ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
  - ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
  - ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

#### 研究内容② 指導・援助の工夫

##### (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

##### (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫(個別最適な学習の充実)

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

#### 研究内容③ 評価の工夫

##### 生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫(指導と評価の一体化)

- ・生徒がなりたいたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

# A 話すこと・聞くこと部会 令和7年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津学園 片山 博寿

令和7年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和7年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

## 目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

### (1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
  - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
  - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切にした指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
  - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

### (2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
  - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
  - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
  - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

### (3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
  - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
  - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

## 令和7年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

## 目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

## 令和7年度 「書くこと」部会 研究主題

## 相手，目的や意図，場面や状況に応じて，

## 考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

## 研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

## (1) 指導計画の工夫

## ①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

## ②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

## (2) 指導・援助の工夫

## ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

## ②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

## (3) 評価の工夫

## ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

## C 読むこと部会 令和7年度の研究方向

読むこと部会部長 高山市立日枝中学校 上條 亘

### 【令和7年度 中国研 研究主題】

## 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

### 【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

### 【令和7年度 読むこと部会 研究主題】

## 文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

### 【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

### 【研究内容】

#### (1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
  - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
  - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
  - ・「読みたい」「読む必要がある」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫
  - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

#### (2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
  - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
  - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（協働的な学びの意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
  - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
  - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

#### (3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
  - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
  - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的にする場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
  - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

# 言語文化部会 令和7年度の研究方向

言語文化部会 部長：可児市立蘇南中学校

加藤 祐輝

## 1 今年度の研究方向

令和7年度 中国研 研究主題

### 生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ◎国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

令和7年度 「言語文化」部会 研究主題

### 言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

#### 研究仮説

- ・古典において、既習の学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

#### 研究内容

##### (1) 指導計画の工夫

- ①多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
  - ・「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- ②語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
  - ・言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

##### (2) 指導援助の工夫

- ①古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
  - ・作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- ②「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
  - ・言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す、聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

##### (3) 評価の工夫

- ①生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
  - ・形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感がもてる評価の場を設定する。

## 令和7年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

<趣 旨> 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

<観 点> ・国語教育の今日的な課題に応える提案性  
・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

<主 催> 岐阜県中学校国語科研究部会

<募集領域> 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

<募集部門> ○論文部門 ○ダイジェスト部門

<応募資格> 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

<形 式> ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。  
・論文部門のページ数は自由。  
ダイジェスト部門は指導案や資料+A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

<応募先> 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺1367  
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一  
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したものと同一のものでも結構です。

※昨年度より上位入賞者には副賞（図書カード）を出しております。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

<応募締切> 令和7年1月8日（木）17：00必着



**多くの先生方の応募をお待ちしています！！**



(令和6年度)

# 収支決算書

部会名 支部	岐阜県中学校国語研究部会	部会No.	10
部会長 支部長	村田 伊津子	職印	印

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	275,900	266,600	266,600
補 助 金		0	0
雑 収 入	85	35	35
繰 越 金	15	15	15
計	276,000	266,650	266,650

(支出)

事業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当 初 予 算	更 正 予 算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	賃 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費		555		0	555
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費	1,000	0	0	1,000	0
	使用料及賃借料	30,000	198,880	198,880	△ 168,880	0
	分 担 金				0	0
助 成 金				0	0	
積 立 金				0	0	
	小 計	31,000	199,435	198,880	△ 167,880	555
図書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費	198,000	67,215	67,215	130,785	0
	通 信 運 搬 費	47,000	0	0	47,000	0
使用料及賃借料				0	0	
	小 計	245,000	67,215	67,215	177,785	0
総 計		276,000	266,650	266,095	9,905	555

(令和7年度)

# 予 算 書

部 会 名 支 部	岐阜県中学校国語研究会	部 会 No. 支 部	10
部 会 長 名 支 部 長	村田 伊津子		職 印 印

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	266,600 円	620円×430人
雑 収 入	845	
繰 越 金	555	
合 計	268,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
小 計	0 円	
研究調査事業	賃 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 × 回 = 0
	通 信 運 搬 費	1,500
	使用料及賃借料	30,000 円 × 日 = 0
	分 担 金	
助 成 金		
積 立 金		
小 計	31,500	
図 書	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
研究成果刊行事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	193,500 450 円 × 430 部 = 193,500
	通 信 運 搬 費	43,000
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
小 計	236,500	
合 計	268,000 円	

「ぎふこくご」No. 76 2026年2月 発行予定内容

- ◆《巻頭言葉》 . . . . . 会長 河合 広映
- ◆国語科教育への提言 . . . . . 岐阜県教育委員会 義務教育課 橋本 奈美 先生

※これまでの流れ

No. 75 . . .	岐阜県教育委員会 義務教育課	馬場 雅也 先生
No. 74 . . .	岐阜県教育委員会 義務教育課	加藤 尚子 先生
No. 73 . . .	岐阜県教育委員会 学校支援課	加藤 尚子 先生
No. 72 . . .	可茂教育事務所教育支援課	今井 則雄 先生
No. 71 . . .	なし	
No. 70 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	西門 純 先生
No. 69 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	富田 泰仁 先生
No. 68 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	山田 高秀 先生
No. 67 . . .	美濃教育事務所教育支援課	高橋 友之 先生
No. 66 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	藤根 隆 先生
No. 65 . . .	可茂教育事務所教育支援課	河合 広映 先生

◆令和7年度 各部会の歩み

- ・ 県中学校国語科研究部会の動き . . . . . 主務者 小宅陽久
- ・ 研究部の歩み . . . . . 研究総括 北原章大
- ・ 話すこと・聞くこと部会 . . . . . 部長 片山博寿
- ・ 書くこと部会 . . . . . 部長 山崎雅
- ・ 読むこと部会 . . . . . 部長 上條亘
- ・ 言語文化部会 . . . . . 部長 加藤祐輝

※各研究部で考えていただいた研究の方向と指導案などをそのまま掲載できればと考えています。

- ◆令和6年度実践記録ぎふこくご賞の指導案
- ◆歴代のぎふこくご賞受賞者一覧
- ◆令和7年度県中国研役員、研究部員組織一覧
- ◆岐阜県中学校国語科研究部会会則
- ◆中学校教育研究会国語部会則

【広報部員】野々村 琢磨

【印刷業者】昭とぷりんと TEL 058-294-8781 nrj00751@nifty.com

【原稿送り先】〒501-3107

岐阜県岐阜市加野2丁目23番地1号 藍川北学園 野々村 琢磨

電子メール アドレス : gigimu01@aikawa-n-g.gifu-gif.ed.jp

※原稿は、ホームページにもアップしたいので、電子メールに添付をお願いします。

原稿依頼 . . . . .	11月初旬
原稿締め切り . . . . .	12月中旬
原稿チェック . . . . .	12月下旬
原稿を業者に提出 . . . . .	12月下旬
校正・原稿チェック . . . . .	1月上旬
製本 . . . . .	1月中旬
配布準備 . . . . .	業者依頼
配布 . . . . .	2月上旬 代議員会

【役割分担】

原稿依頼や業者との連絡等は野々村がやります。

原稿チェックに主務、研究総括の先生方、お力をお貸し下さい。

令和7年5月7日

県内各中学校長 様  
県内各義務教育学校長 様  
県内各特別支援学校長 様

岐阜県小中学校教育研究会  
中学校国語科研究部会  
会長 河合広映

令和7年度 第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会について

立夏のみぎり 貴台におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、本会の活動に御理解と御高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年度も、標記コンテストの事務を本会が担当し、別紙「令和7年度 第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定」に基づき実施することとなりました。

については、貴校の担当者に周知いただき、積極的な参加について御高配賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

大垣市立北中学校	和田光平
電 話	0584-78-3591
F A X	0584-78-3543

## 第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定

### 1 目的

情報化社会に生きる中学生の、豊かな人間性の育成をめざし、中学校の特色ある教育活動の中核となる校内放送活動および放送教育の充実・発展をはかる。

### 2 ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 番組制作を通して、今後の校内放送活動の充実・発展をはかる。
- (3) 中学校生活の中に、うるおいを育み、教師と生徒の心のふれあいの場をつくる。

### 3 主催

全国放送教育研究会連盟，NHK，一般財団法人NHK財団  
岐阜県小中学校教育研究会中学校国語科研究部会

### 4 後援

文部科学省

### 5 審査日

令和7年7月22日（火） [CD・DVDによる審査。非公開]

### 6 コンテストの各部門

- (1) アナウンス (2) 朗読 (3) ラジオ番組 (4) テレビ番組

参加の詳細については、各校に配布される「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を参照のこと。なお、以下のアドレスにも関連情報が掲載されている。

放送コンテストについて <https://www.nhk.or.jp/event/n-con/jh/contest.html>

参加規程について [https://www.nhk.or.jp/event/n-con/assets/pdf/42\\_guide.pdf](https://www.nhk.or.jp/event/n-con/assets/pdf/42_guide.pdf)

#### (1) アナウンス部門について

〈課題〉中学校生活の中から素材を求めた内容とする。

ア. 原稿は生徒の自作とし、校内ニュースやニュース解説など、自校の校内放送用のもの。

(複数の生徒が同一原稿を読むことは認めない。)

イ. 楽曲の一部分を歌唱する場合など、著作権の処理が必要な場合は原稿制作者の責任において使用許可を得たうえで、使用許可を得ていることを証明するものを添付すること。

ウ. アナウンス本文は、20字×20行以内におさめる。

エ. 録音は、アナウンス本文の前に、都道府県名、名前を述べる。(録音時の編集不可)

オ. 原稿は、A4判様式1-1、様式1-2を使って書き、2部(コピー可)提出する。

**※この際、ホチキス留めをせず、紙は折らないまま提出すること。**

カ. 提出CDは、アナウンス1名につき1枚とする。

キ. 提出CDは、CD-R (CD-DA形式 [音楽CDと同じ形式] で録音)。

※音声ファイル(WAV, MP3, WMA, AAC等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(CDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

ク. CDのラベルは様式2に従って記入し、貼付する。

## (2) 朗読部門について

〈課題〉 次の指定作品のうち、1編をえらび、自分の表現したい部分を決め朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。翻訳作品は、必ず指定された訳者による本を使用すること。  
《指定作品》

①『走れメロス』	太宰 治 著	(新潮文庫)
②『トンネルの森 1945』	角野栄子 著	(角川文庫)
③『ライオンのおやつ』	小川 糸 著	(ポプラ文庫)
④『水を縫う』	寺地はるな 著	(集英社文庫)
⑤『日々是好日ー「お茶」が教えてくれた15のしあわせ』	森下典子 著	(新潮文庫)
⑥『宝島』	ロバート・L・スティーヴンソン 著/鈴木恵 訳	(新潮文庫)

〈注 意〉 ※ ( ) 内の出版社に限る。

※『走れメロス』は平成17年改版以降のものに限る。収録作品のいずれを選んでも良い。選択した収録作品のタイトルを作品名として読むこと。

※『宝島』は令和2年発行の「第2刷」以降のものに限る。

**※原稿の提出にあたってはホチキス留めをせず、紙は折らずに、平らなまま提出すること。全国大会への推薦が決まった場合は事務局にて製本する。**

ア. 朗読のはじめに、都道府県名、名前、作者名(訳者名は読まない)、作品名を述べ、それを含めて2分以内で朗読する。(録音時の編集不可)

イ. 原稿は、A4判様式1-1、様式1-2を使って書き、2部(コピー可)提出する。

**※この際、ホチキス留めをせず、紙は折らないまま提出すること。**

ウ. 提出CDは、アナウンス1名につき1枚とする。

エ. 提出CDは、CD-R(CD-DA形式[音楽CDと同じ形式]で録音)。

※音声ファイル(WAV, MP3, WMA, AAC等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(CDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

オ. CDのラベルは様式2に従って記入し、貼付する。

## (3) ラジオ番組部門

〈課題〉 中学校生活から生まれたもので、テーマは自由とする。

ア. 作品の最後に「制作は〇〇中学校放送部(放送委員会等)でした」というクレジットコール(BGMはつけないこと)を入れ、それを含めて5分以上7分以内にまとめる。

イ. 台本を、A4判様式1-3、様式1-4に従って書き、2部(コピー可)提出する。

ウ. 学校外の施設やイベント会場で収録を行う場合は施設管理者・主催者の許諾が証明できる書類を添付すること。(指定の書式等が無い場合は28ページの「ご協力のお願い」を使用する)

エ. 提出CDは、CD-R(CD-DA形式[音楽CDと同じ形式]で録音)。

※音声ファイル(WAV, MP3, WMA, AAC等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(CDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

オ. CDのラベルは様式3に従って記入し、貼付する。

※決勝に進出した場合は、7ページのとおり、写真を提出すること。(写真は以下用途で使用)

#### (4) テレビ番組部門

〈課題〉 中学校生活から生まれたもので、テーマは自由とする。

ア. 番組の前後に5秒ずつ(規定時間外の扱い)のテストパターンを録画する。様式5による。

※テストパターンを改変したり、BGMをつけたりしないこと。

イ. 台本を、A4判様式1-3、様式1-5に従って書き、2部(コピー可)提出する。

ウ. 5分以上8分以内でまとめる。(テストパターンの間を計測する)

エ. テレビ放送の再録等を加えたものは認めない。

オ. 撮影にあたっては映像に映りこむ著作物にも注意を払い、制作者の責任で必要な許諾を得ること。また、映像に映り込んだ人に対しては、制作者の責任でコンテストや番組の趣旨を説明し、承諾を得ること。

カ. 学校外の施設やイベント会場で収録を行う場合は施設管理者・主催者の許諾が証明できる書類を添付すること。(指定の書式等が無い場合は28ページの「ご協力のお願ひ」を使用する)

キ. 提出DVDは、

①DVD-VIDEO形式(NTSC規格、アスペクト比4:3か16:9のいずれか)で録画されたDVD-R。

②メニューは付けないこと。

※動画ファイル(AVI、WMV、FLV、MPEG4、MKV等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(DVDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

※作品以外のデータをいれないこと。

ク. DVDのラベルは様式4に従って記入し、貼付する。

### 7 表彰

(1) 各部門の1位を最優秀賞、2~3位を優秀賞、4位以下を完成度等を考慮して優良賞または奨励賞とする。各賞の順位等については審査内容により適宜変更する。例えば、最優秀賞に該当がないことなどもあり得る。

(2) 全国大会への推薦は、全国大会の規定に基づき、その最大エントリー枠の中で行う。(アナウンス部門6名、朗読部門6名、ラジオ番組3本、テレビ番組3本を上限とする。)

(2) 入賞作品には賞状および副賞を贈る。

(3) 参加状況・入賞状況等を考慮し、参加校に学校賞を贈る。

### 8 参加資格

(1) 令和7年8月現在、以下の学校および各種学校に在学中の生徒であり、またその作品であること。

① 中学校および中等教育学校の前期課程および義務教育学校の後期課程

② 特別支援学校の各中学部

③ 各種学校(修業年限が中学校と一致していること)

(2) ラジオ番組・テレビ番組部門は、参加資格に該当する学校の生徒の創作、制作に限る。また、他のコンクールなどに参加した作品及び参加予定の作品の参加は認めない。

(3) アナウンス・朗読部門は、同一人が両部門にエントリーすることはできない。

(4) ラジオ番組・テレビ番組部門は、同じ学校から部門ごとに各1本までエントリーすることができる。

(5) コンテスト参加作品の著作権は、制作者(応募した学校)に帰属する。

その他、全国大会の規定を参照し、これに従うこと。

## 9 参加申し込み

◎以下の手順で、参加申し込みを行う。

- (1) 参加を希望する学校は事前登録を行う。⇒⇒ 令和7年6月27日(金)必着
- ・参加を希望する学校は、別紙「岐阜県大会参加登録用紙」に必要事項を記入し、上記期日までに中国研情報部事務局担当者宛 F A Xにて送信する。
- (2) 参加校は、音源CD（テレビ番組部門においてはDVD）を作製し、中国研情報部担当者あて送付する。⇒⇒ 令和7年7月7日(月)必着
- ・このとき、原稿・台本（各2部）および録音・録画したCD・DVDを送付すること。エントリーナンバーの欄は空欄とする（全国大会参加の場合のみ、岐阜県大会事務局で記入する）。
  - ・各様式等については、4月に各中学校に配付された「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」の掲載様式を使用すること。
  - ・作品の送付先（事務局）は以下の通り  
〒503-0016 大垣市八島町2290番地  
大垣市立北中学校 和田光平  
電 話 0584-78-3591  
F A X 0584-78-3543

## 10 全国コンテストへの参加

優れた作品については、全国大会の規定に基づき、岐阜県大会事務局が全国コンテストへエントリーを行う。（岐阜県大会への参加が全国大会参加の条件となるので、直接全国大会に申し込みをしないよう注意すること） なお全国大会の日程は下記の通り。

予選：2025年8月2日（土）、3日（日）－非公開－

決勝：2025年8月19日（火）－決勝出場校を対象に公開予定

※決勝の審査会場－千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町1-1）

該当する学校には、岐阜県コンテスト終了後に連絡する。

## 11 その他

各部門の課題及び参加上の注意については、上記「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を熟読し、失格とならないよう注意すること。

第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加事前登録用紙

学校名	立 中学校
参加部門	<p>                     【1】 アナウンス ( 名 )                      【2】 朗 読 ( 名 )                      【3】 ラジオ番組 ( あり・なし )                      【4】 テレビ番組 ( あり・なし )                 </p> <p>                     ※上記【1】～【4】の ( ) に必要事項を記入して下さい。                      ※別紙「岐阜県大会参加規定」の8に留意してください。                 </p>
担当者名	(Blank)

F A X送信先 F A X番号	大垣市立北中学校 和田光平 宛 0 5 8 4 - 7 8 - 3 5 4 3
---------------------	--